

★★ 頑張った対価 ★★

小雨季に入ったガーナ。突然、真つ黒い雲に覆われ、激しい雨が降りだすか、または雨をもたらず激しい突風が吹きはじめ、町に散乱している黒いビニールの小さな袋が舞い、雨が降りはじめます。6月に入ると本格的な雨季となります。今年の小雨季は去年に比べると雨が少ないように感じます。雨が降ると、村の活動はお休みです。それは、雨の日のトロトロと呼ばれる乗り合いバスの移動がとても危険だからです。4月に入って最初のそろばん教室の日は、雨が少なく感じました。小雨季の中で、私にとって皮肉なことに雨となつてしまいました。前回51号でドイツとクレナムが皆勤賞を受賞したことを報告しましたが、さらに二人に残された時間もモチベーションが持てるように暗算プリントの練習を強化させたいと思つていたので。

3級に入り、小数点の計算をやっている二人にとって、なかなか検定実施に至るまでの正解率とスピードが追い付いていません。時間の開室時間でも、いつの頃から遅く来るようになった二人が、プリントの直しをやり、新たに10分を計って、みとり、乗算、除算、伝票と30分の時間が作れません。ならば・・・暗算10分を一回もしくは二回行った方が、二人にとって練習成果が確実に出るのでは？と思つています。高校受験が実施される9月までに、なんとか練習プリント20回分を終わらせ、ドイツは暗算2級、クレナムは暗算3級の検定を受けさせてあげたいと思つてしまふのです。

そのクレナムに皆勤賞のご褒美でプレゼントした腕時計を、クラスメイトのエリザベスがしているのを目にして、今もなおモヤモヤして心晴れないものがあります。

この二人の関係性は知りません。腕時計を手にして、自ら自分の手首に時計を着けたクレナムは、とても嬉しそうに“とっても嬉しい”と言っていたのに、数日後の授業でエリザベスが腕にしていたのです。これまでも、こうして、ご褒美を貰った本人以外の子どもがあなたも自分が貰ったかのように平然と使っている場面を見かけてきました。その度に使用している子どもには腹ただしさを覚え、教室に通い、頑張つてご褒美を手にした子どもに対しては“何であげちゃうの？頑張つたご褒美なのに”とモヤモヤしたものが生じます。貸すという言葉が存在しないようにも感じます。貸すは、あげるを意味し、借りるは貰うを意味する。そんな気がしてなりません。持っている者が、持っていない者に与えるというのはガーナの美学という声もあります。しかし、何年住んでいてもこの美学に慣れず、苛々しモヤモヤしてしまうのです。そろばん教室のご褒美は、開室以来、こうした事があつても続けていることです。これからご褒美制度はやっていくつもりです。4月のたった一回の開室の中で、あと少して8級5回分が終わるコンスタンスにプリントを渡す時に“今日、ご褒美貰えるかな？”と言うと、とても嬉しそうな顔をしてプリントを受け取りました。この日、コンスタンスはご褒美までに至りませんでした。もしかしたら、ご褒美で貰えるペンケースをコンスタンスは自分で使わないかもしれない。そんな嫌らしい思いが私の中になりましたが、コンスタンスは、この5回分のプリントに来るまで、かなりの時間を要しています。なかなか九九を暗記できずに、何度も私から注意を受け、とうとう3月の終わりに九九表を渡さずに練習させたのでした。そしたら、ゆつくりと思ひ出すようにそろばんの珠を弾く手が止まりながらも計算していたのでした。

そろばん教室のご褒美は、こうして頑張つた対価だからこそ、これからも続けていきます。